

事後評価結果

課題管理番号 : 17ek0109098h0003
研究開発課題名 : 慢性活動性 EB ウイルス感染症とその類縁疾患に対する革新的治療薬を実現するための統合的研究体制の構築
研究代表機関名 : 国立研究開発法人国立成育医療研究センター研究所
研究開発代表者名 : 藤原成悦

評価委員会のコメント :

○評価できる点、推進すべき点、研究事業にとって必要である理由

EBV 特異的治療薬のスクリーニングはできたようである。
スクリーニングはうまくいっている様子である。
本疾患の治療および評価指標を総合的に検討することができる。
治療法のない CAEBV に対して治療薬候補を見出しているようである。
ヒット化合物の同定は出来ている。
EB ウイルス感染症に関して、候補となるシーズを提示できている。
予定された成果は出ている。
二つのヒット化合物の同定、効果判定の迅速検査法の開発、医師主導試験の開始、ルキシソリチニブの非臨床 POC 取得などの成果がえられている。
アジアで比較的特異な疾患であり、日本で研究開発することには意義がある。
既存薬の適応拡大で非臨床 POC が得られている。

○疑問点、改善すべき点、その他助言等

開発ストラテジーの整合性が乏しい。
今後の方向性が不明確である。
ステップ 0 としての進展が明瞭でない。
見つけたとするシーズの利用方針が明確でない。
3つのアプローチを並行で行う意義が明確でない。
プレゼンの準備が不十分である。
研究のプライオリティの順番が不明である。今回の最大の成果が何なのか、それに基づいてどのような課題が残るのかが不明である。
リード化合物の同定は今後の課題である。また既存薬での治験も準備中である。
画期的な発見はなく、計画がとん挫する可能性もあり計画が散逸である。
複数シーズの優先順位に関する情報が得られているのかが不明である。
今後の戦略の確認が必要である。
今後の開発方針についての整理を行うことが必要である。
核酸誘導体開発の意義が不明である。

以上